

## 2011 年度大学入試センター試験 解説〈日本史B〉

### 第1問 明かりと燃料の歴史 (配点 12)

問1  1 ①が正しい。

- a 古墳時代には、春に農作物の豊作を神に祈る<sup>としごいのまつり</sup>祈年祭や、秋に収穫した新米を神に捧げて感謝する<sup>にいなめのまつり</sup>新嘗祭などの農耕儀礼が行われるようになった。
- c 聖武天皇は、仏教の<sup>くどく</sup>功德によって国家の安定を保とうと考え、741年に国分寺建立の詔を発して諸国に国分寺・国分尼寺を建てさせ、743年には大仏造立の詔を<sup>るしゃなぶつ</sup>発して盧舎那仏の造立に着手させた。

問2  2 ⑤が正しい。

- Ⅲ 公地公民制が崩壊して国家財政がゆきづまると、<sup>くえいてん</sup>公営田・官田(元慶官田)などの直営方式の田が設けられるようになった。

嵯峨天皇は823年に大宰府管内に公営田を設置して財源を確保した。

- I 下総を本拠とした<sup>たいらのまさかど</sup>平将門は、939年、常陸・下野・上野の国府を攻略して関東地方の大半を占領し、自ら<sup>しんのう</sup>新皇と称したが、翌年に<sup>ひでさと</sup>平貞盛や藤原秀郷らの東国の武士によって討たれた。
- Ⅱ 平清盛は、1167年に武士として初の太政大臣となり、娘徳子を高倉天皇の中宮に入れ、その子<sup>しんとう</sup>安徳天皇の外祖父として権力を掌握した。平氏政権は、全盛期には500余か所の荘園と30余か国(全国の約半分)の知行国を獲得し、これを財政基盤とした。

問3  3 ②が誤り。

- ② <sup>おきつぐ</sup>田沼意次は、長崎貿易の政策を転換し、<sup>たわらもの</sup>銅や俵物の輸出を増やして、不足が顕著になっていた金・銀の輸入をはかった。俵物は、江戸時代に長崎から輸出された海産物で、いりこ・ほしあわび・ふかのひれなどを俵につめたものをいう。よって、中世における経済・産業を示す記述として適当でない。

問4  4  ③が正しい。

ア 江戸時代に入ると、農業経営を安定させた農民のなかには、収益性の高い商品作物を栽培する者も多くみられるようになった。とくに、和紙の原料になった楮<sup>こうぞ</sup>や灯火用の菜種<sup>なたね</sup>、染料の紅花<sup>べにばな</sup>・藍、ろうそくの原料をとる樫<sup>はぎ</sup>などの栽培が広まった。

イ 明治時代初期の西洋文明の摂取は建築にもおよび、東京の銀座通りには煉瓦造<sup>れんが</sup>の洋館が並び、ガス灯のともる街を人力車や鉄道馬車が走った。

問5  5  ②が正しい。

X・Y 日本の産業革命を支えた繊維産業の労働者は、苦しい家計をたすけるために出稼ぎに出された小作農家などの子女たちであった。彼女らは、低賃金のうえに苛酷な労働条件下にさらされ、肺結核などの病気に侵される者も少なくなかった。紡績業では昼夜2交代制の12時間労働制がとられ、製糸業では労働時間が15時間を越える場合もあった。若年女子労働者が生まれた背景として、松方デフレ以降増えはじめていた小作地の全耕地に占める割合が1890年以降も上昇をつづけ、明治時代末には全耕地の半分近くを小作地が占めるようになったことがあげられる。小作料の支払いに苦しんだ小作農は、子女を繊維工場に出稼ぎに出して、困窮した家計を補わせたのである。Yの紡績工場で3交代制の8時間労働が行われたとする記述は誤り。

問6  6  ①が正しい。

大阪紡績会社は、1882年に渋沢栄一らによって設立され、蒸気力を原動力とするイギリス製の紡績機械を用いて大規模な生産を行った。この大規模経営の成功を契機に、大阪を中心に紡績会社の設立があいつぎ、従来のガラ紡による綿糸生産を凌駕しながら機械制生産が急増した。

②の第一次世界大戦期に成功した猪苗代<sup>いなわしろ</sup>—東京間の長距離送電は水力発電事業、③の原子力発電は東海村の日本原子力研究所が1963年に初めて成功、④の1979年の第2次石油危機はイラン革命を契機に発生しているから、いずれの記述も誤り。

## 第2問 原始・古代の政治と宗教 (配点 18)

問1  7  ③が正しい。

ア・イ 古墳時代にも呪術的風習は広く行われ、穢<sup>けが</sup>れや罪を川や海で洗い清める禊<sup>みそぎ</sup>や、災厄や穢<sup>けが</sup>を払いのけるために行われる神事である祓<sup>はらえ</sup>、鹿の骨を焼いてひびの割れ具合で吉凶を占う太占<sup>ふとまに</sup>、さらに沸騰した湯に手を入れさせて手がただれるかどうかで真偽を判断する盟神探湯などがみられた。

問2  ②が正しい。

- a 古墳時代前期の古墳の被葬者は、古墳に銅鏡や碧玉製の腕輪類などの呪術的色彩の強い副葬品が納められていることから、司祭者的性格が強かったと推定できる。また、古墳時代中期になると、鉄製の武器や武具・馬具などの副葬品の比重が高まり、この時代の被葬者が武人的性格を強めたことがうかがえる。bは中期の副葬品の記述に誤りがある。
- d 古墳時代後期には、小規模な円墳が密集して数多く営まれる群集墳が各地でつくられるようになり、これは農業生産力の向上によって豪族以外にも古墳を造営できる有力農民が台頭してきたことを示している。cの有力農民層による古墳造営は行われなかったとする記述は誤り。

問3  ②が正しい。

写真甲は平城宮の復元模型であり、後方に国家的儀式を行う大極殿がみられる。写真乙は古代民衆の住居を示す復元模型で竪穴住居や掘立柱の建物がみられる。写真丙は五重塔や金堂などを配していることから寺院の伽藍であることがわかる。

問4  ③が誤り。

史料は743(天平15)年に発せられた墾田永年私財法からの引用である。

政府は、723(養老7)年の三世一身法で期限付きの土地私有を認めたが、期限が満になると土地は収公されてしまうため、この法は開墾奨励に効力を発しなかった。そこで、墾田永年私財法を発して、今後は三世一身の期限を設けずに墾田は私財として所有することを認めたのである。墾田は租を納める輪租田であり、開墾地の面積には身分によって制限が設けられていた。政府はこの土地政策によって田地の掌握を強めた。

道鏡政権下の765年、寺社をのぞいて開墾は一時禁止されたが、道鏡失脚後の772年に復活し、以後は開墾に際しての条件も取り除かれて無制限の開墾が認められることとなった。そのため、資力に恵まれた貴族や大寺院などは、周辺の農民や浮浪人を使役して大規模な開墾に乗り出し、初期荘園を成立させた。

よって、③の墾田永年私財法ののちに三世一身法が発布されたとする記述は誤り。

問5  ④が正しい。

浄土信仰は、阿弥陀仏の救いによって来世での極楽往生を願う教えで、10世紀半ばに空也が京都で庶民にこれを説き、さらに源信（恵心僧都）が『往生要集』を著して念仏往生の教えを説くと、貴族から庶民のあいだまで広く普及することとなった。

①の空海は唐に渡って密教を学んで帰国後に真言宗を開き、②の最澄の弟子円珍・円仁も唐に渡って天台宗に密教を導入したので誤り。また、③の鑑真が唐から渡来したのは8世紀半ばのことであるから誤り。

問6  ⑤が正しい。

Ⅲ 初期荘園は律令国家の地方支配機構に依存して経営されていたため、律令的支配の崩壊とともに10世紀までにその多くが衰退した。

I 10世紀後半、大名田堵のなかには、財力を背景に領域を開発し、それらを私有化して開発領主となる者もあらわれた。11世紀に入ると、彼らのなかには国司の圧迫を逃れようとして所領を貴族や寺社に寄進し、自らは荘官として所領の私的支配を強める者もあった。

Ⅱ 院政期の11世紀後半以降、多くの荘園を所有した大寺院は、下級僧侶からなる僧兵を組織して、寺院の主張を通すために神木や神輿をかついで朝廷に強訴し、実力で寺院の権益を拡大させていった。

### 第3問 中世の政治・文化・社会（配点 18）

問1  ④が正しい。

ア 平安時代後期になると、浄土教の阿弥陀仏信仰が聖などの民間の布教者によって地方にまで広がりを見せ、平泉の中尊寺金色堂のほか、大分県の国東半島に建てられた富貴寺大堂や福島県のいわき市郊外に建てられた白水阿弥陀堂など、各地にすぐれた阿弥陀堂が築造された。

イ 蒙古襲来（元寇）を契機に鎌倉幕府の支配権が全国的に強化されると、北条氏嫡流の当主である得宗に権力が集中するようになり、第9代執権北条貞時以降は得宗が幕政を左右するようになり、この政治形態はそれ以降も踏襲された。

問2 14 ②が誤り。

源頼朝は鎌倉幕府の支配機構を整備し、中央機関として御家人を統率する侍所や一般政務を扱う政所まんどころ（当初は公文所くもんじよ）、裁判事務を担当する問注所を設置した。地方には守護と地頭を設置したほか、洛中の警備や裁判などを扱った京都守護のほか、九州の御家人を統率した鎮西奉行や奥州の御家人を統率した奥州総奉行などを置いた。

頼朝の死後、1221年の承久の乱後に、京都守護にかわって六波羅探題が設置され、朝廷の監視や西国の御家人の統轄にあたるようになった。よって頼朝が六波羅探題を設置したとする②の記述は誤り。

問3 15 ③が正しい。

X 応仁の乱後、勘合貿易の実権は大内氏と結ぶ博多商人、および細川氏と結ぶ堺商人に移り、両者は1523年に貿易の主導権をめぐる中国の寧波ニンポーで争った（寧波の乱）。その結果、大内氏が勝利して貿易を独占したが、大内氏が滅亡した1551年に勘合貿易は途絶することとなった。

Y 1419年、倭寇に悩まされた朝鮮はその本拠地とみなした対馬を襲撃し、応永の外寇とよばれる事件を起こした。

地図の位置としては、寧波はb、対馬はcに該当する。寧波に関する地図問題は、2006年センター試験・日本史Bの本試験でも出題された。

問4 16 ④が正しい。

ウ 鎌倉時代には、交通の要地や寺社の門前などに定期市が発生し、月3度開かれる三斎市が一般的となった。定期市では、米や周辺の特産物などが売買され、中央から鉄製農具や工芸品などを運ぶ行商人の姿もみられた。また、京都や鎌倉などの都市では、定期市のほかに見世みせ棚たなとよばれる常設の小売店も生まれた。

エ 室町時代には、流通貨幣として宋銭や明銭（永楽通宝・洪武通宝など）が用いられたが、貨幣の需要の増大とともに銭貨が不足したため、粗悪な私鑄銭が出回るようになった。そのため、取引の際に悪銭を嫌い、良銭を選ぶ撰銭えりぜにの行為が横行したため、幕府や大名は公認の流通貨幣や良銭と悪銭の交換比率を定めた撰銭令をしばしば発布した。

問5 17 ③が正しい。

応仁の乱で焼かれた京都は、富裕な商工業者である町衆によって復興され、祇園祭も彼らの手によって再興されることとなった。

①の新築した聚楽第に後陽成天皇を招いたのは豊臣秀吉、②の東市・西市が置かれたのは奈良時代、④の花の御所を創建したのは室町幕府第3代将軍足利義満であるから、いずれの記述も適当でない。

問6 18 ②が正しい。

I 『鳥獣戯画』は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて鳥羽僧正覚猷によって描かれた絵巻物で、動物を擬人化して当時の社会を風刺している。

III 桃山時代には、狩野派の画家が、襖や屏風などに金箔や華麗な色彩を使った濃絵の豪華な障壁画の作品を残し、狩野永徳は障壁画として『唐獅子図屏風』を描いた。

II 江戸時代初期には、日光東照宮をはじめとする霊廟建築が流行し、その建築様式として権現造が用いられた。

#### 第4問 近世の外交・政治・社会 (配点 17)

問1 19 ④が正しい。

ア・イ 松平定信は、祖父徳川吉宗の政治を理想として寛政の改革に着手した。彼が政権を担った時期は、田沼意次が政権からしりぞいた翌1787年に江戸や大坂など全国で天明の打ちこわしが発生し、1792年にはロシア使節ラクスマンが根室に来航して通商を求めるなど、国内外の政治的課題が山積していた。

東北地方の冷害から1782年にはじまった天明の飢饉は、浅間山の大噴火を経て大飢饉となり、東北地方に多数の餓死者を出した。領主が財政難のために救済策をとることができなかったこともあって、食糧難にあえいだ農民は百姓一揆を激発させ、江戸や大坂などの大都市でも民衆が激しい打ちこわしを起こした。

問2 20 ②が正しい。

I 1808年、イギリス船フェートン号が長崎に侵入し、オランダ商館員を人質として食料や燃料を強要する事件を起こした(フェートン号事件)。

III 江戸幕府は、1825年、度重なるイギリス船などの日本近海での出沒に対応し、異国船打払令を発して外国船の撃退を命じた。

II 江戸幕府は、1842年、清国がアヘン戦争に敗れた情報を得ると、異国船打払令を緩和して薪水給与令を出し、漂着した外国船には燃料・食糧をあたえることにした。

問3 21 ②が正しい。

琉球王国は、1609 年、島津家久の軍に征服されて薩摩藩の支配下に入った。薩摩藩は、服属後も琉球と明との朝貢貿易を継続させたが、それは琉球を通して中国の産物を入手するための方策であった。

①の1609年の<sup>きゅうやくじょう</sup>己酉約条（慶長条約）によって対馬藩の宗氏に外交上の特権が与えられ、釜山に設置された倭館で交易が行われた。③の朱印状は戦国時代から江戸時代の支配者が発行した公文書で、この発行を受けた日本の貿易船がおもに東南アジアなどで出會貿易を行った。④の江戸幕府が海外情報を入手するために利用したのは、オランダ商館長がオランダ船来航のたびに幕府に提出した<sup>ふうせつがき</sup>オランダ風説書であったので誤り。

問4 22 ③が正しい。

X 第4代将軍徳川家綱は、1651年に兵学者由井（比）<sup>しょうせつ</sup>正雪による慶安の変（由井正雪の乱）が発覚すると、<sup>まつごようし</sup>末期養子の禁を緩和して牢人（浪人）の発生を抑えるとともに、かぶき者の取締りを強化する策を講じた。また、**殉死を禁止**し、大名が幕府に人質を出す証人の制を禁ずるなど、戦国以来の遺風を解消する政策を展開した。

Y 第8代将軍徳川吉宗は、1722年、財政難の急場をしのぐために諸大名に上げ米を命じ、石高1万石につき米100石を幕府に年々献上させた。そのかわりに、参勤交代の江戸在府期間を1年から半年に短縮するという措置を講じた。

問5 23 ②が正しい。

X 19世紀前半、薩摩藩は、下級藩士<sup>ずしよひろさと</sup>調所広郷を登用し、財政再建や藩権力の強化に着手した。調所広郷は、約500万両におよぶ負債を事実上たなあげにし、特産の黒砂糖の専売の強化や琉球王国との密貿易で利益をあげ、財政再建に成功した。

Y 岡山藩主池田光政は、郷学として<sup>しづたにがっこう</sup>閑谷学校を設立し、農村の子弟にも入学を許可した。よって、庶民の入学を認めなかったとする記述は誤り。

問6 24 ③が正しい。

b 朝鮮通信使は新将軍就任の慶賀をおもな目的として来日したが、通信使の宿泊先には国内の文人らが訪れ、活発な交流が行われた。

c 中国の影響を受けた南画は知識階級が好んで描いたので**文人画**ともよばれ、18世紀後半に<sup>いけのたいが</sup>池大雅や<sup>よきぶそん</sup>与謝蕪村らがこの画風を大成させた。

aのキリシタン版はヴァリニャーニが伝えた**西欧の活字印刷機**によって刊行、dの<sup>なるたきじゆく</sup>鳴滝塾の出身者には高野長英らがいるが、杉田玄白はこれに該当しない。

第5問 金子堅太郎 (配点 12)

問1 25 ④が正しい。

X 江戸幕府は、開国後、海外に留学生を派遣して欧米諸国の文物を学ばせ、国内の近代化に着手した。幕府が設置した洋書調所の教官がオランダに留学したほか、薩摩藩や長州藩も藩士をイギリスに留学させた。よって、留学生を派遣しなかったとする記述は誤り。

Y 中村正直は、1866年にイギリスに留学して功利主義を学び、イギリス人スマイルズの『自助論』(Self Help)の翻訳書『西国立志編』や、同じくイギリス人ミルの『自由論』(On Liberty)の翻訳書『自由之理』を刊行し、啓蒙思想の普及につとめた。よって『自由之理』の著者を中江兆民とする記述は誤り。

中江兆民は、フランスに留学し、ルソーの『社会契約論』の一部を漢訳した『民約訳解』を刊行している。

問2 26 ③が誤り。

1880年代後半から1890年代にかけて、鉄道業や紡績業を中心に会社設立ブーム(最初の企業勃興)が起こり、機械制生産も本格的に導入されるようになった。日清戦争前後には、紡績業や製糸業などの繊維産業を中心に産業革命が進展し、綿糸や生糸の輸出高が大幅に増加した。日露戦争前後に重工業部門が発達をみると、三井・三菱・住友などの財閥は、銀行や鉱山・貿易業などを中心に多くの企業を多角的に経営し、コンツェルンの形態を整えはじめた。

よって、③のコンツェルン形態の成立は、企業勃興期の日本経済の特徴として適当でない。

問3 27 ②が正しい。

a・d 明治政府は、日清戦争の賠償金などをもとに官営の八幡製鉄所を設立し、鉄鋼の国産化をめざした。1901年から操業を開始した八幡製鉄所は、原料の鉄鉱石を中国の大冶鉄山から輸入し、燃料の石炭は北九州の筑豊炭田から採掘して利用した。

問4 28 ④が正しい。

1924年、貴族院を中心とした清浦奎吾内閣が成立すると、護憲三派(憲政会・立憲政友会・革新倶楽部)は普通選挙実施や貴族院改革を唱えて第二次護憲運動を展開した。同年に実施された衆議院議員総選挙で護憲三派が大勝すると、憲政会総裁加藤高明を首相とする護憲三派内閣が成立した。

①の第1次大隈重信内閣の与党は憲政党、②の第一次護憲運動の中心政党は立憲政友会と立憲国民党、③の第一次護憲運動後に成立した第1次山本権兵衛内閣は立憲政友会と提携しているから、いずれの記述も誤り。

第6問 近現代の日本の経済・社会 (配点 23)

問1 29 ②が正しい。

- ア 第2次桂太郎内閣は、日露戦争後、内務省を中心にした地方改良運動を進め、町村財政の立て直しをめざした。この運動は、村落共同体から行政を執行するものと変えるために町村を再編成し、その租税負担力を増加させることを目的に推進された。
- イ 第一次世界大戦の勃発は大戦景気とよばれる好景気を日本にもたらし、世界的な船舶不足により、造船業や海運業では多くの船成金ふななりきんを生んだ。

問2 30 ④が正しい。

- Ⅹ 明治時代の自然科学の分野では、西洋文化の影響を受けた独創的な研究成果がみられ、高峰讓吉たかみねじょうきちは強心薬アドレナリンの抽出と消化薬タカジアスターゼの創製に成功した。また、鈴木梅太郎はオリザニンの抽出、志賀潔きよしは赤痢菌の発見に成功した。北里柴三郎きたざとしばさぶろうは破傷風菌はしょうふうの純粹培養やペスト菌の発見、伝染病研究所の設立など様々な分野で医学の発展に貢献した。
- Ⅺ 大正期の自然科学の分野では、本多光太郎のK S磁石鋼の発明や野口英世ひでよ おうねつびょうの黄熱病の研究などのすぐれた業績が生まれた。

問3 31 ⑥が正しい。

- Ⅲ 1923年、関東大震災が発生すると、日本経済は大打撃を受け、銀行は震災手形とよばれる決済不能になった手形を抱えこむことになった。政府は、決済不能になった手形を日本銀行に特別融資させたが、不況が慢性化するなかで未決済となった手形が多く現れた。
- Ⅱ 1927年、震災手形処理問題をめぐる蔵相片岡直温なほるの失言を端緒に金融恐慌が発生すると、銀行・会社の倒産・休業があいついだ。第1次若槻礼次郎内閣は、鈴木商店に対する巨額の不良債権をかかえた台湾銀行を救済するための緊急勅令案をはかったが、内閣の協調外交方針を批判していた枢密院の了承が得られず、総辞職した。
- Ⅰ 浜口雄幸内閣おさちは、緊縮財政と産業合理化によって物価の引き下げをはかり、さらに輸出の促進と為替相場の安定を企図して1930年に金解禁を断行した。しかし、前年10月にニューヨークのウォール街の株価暴落を端緒に発生した世界恐慌は空前の広がりを見せ、また旧平価(100円=49.85ドル)で解禁したことも要因となって、金解禁策は本来の主旨とは反対に輸出の減退と金貨の海外流出をもたらすこととなった。

問4 32 ①が正しい。

ウ 犬養毅内閣の蔵相高橋是清<sup>これきよ</sup>は、1931年に金輸出再禁止を行い、日本の通貨システムを管理通貨制度に移行させた。

エ アメリカは、1939年、日本の中国侵略に抗議して日米通商航海条約の廃棄を通告し、翌年同条約は失効した。

問5 33 ④が正しい。

b 敗戦後の日本経済は、極度の物資不足と通貨の増発などによって、激しいインフレーションが進み、国民生活は極度に圧迫された。幣原喜重郎<sup>してはら きじゅうろう</sup>内閣は、1946年、インフレーションの抑制を目的に金融緊急措置令を発し、預金封鎖や新円切り換えなどを実施した。しかし、効果は一時的で、物価の上昇が止むことはなかった。

d 1949年、デトロイト銀行頭取ドッジは、日本経済を短期間に安定させることを目的に、経済安定九原則の実施をはかった。ドッジが立案したドッジ＝ラインは、超均衡予算による歳出削減と単一為替レート（1ドル＝360円）の設定を示したもので、これを通じて赤字財政は解消してインフレーションも終息した。しかし、一連のデフレ政策によって、企業整理や倒産があいつぎ、日本は深刻な不況に包まれることとなった。

問6 34 ②が誤り。

沖縄では、1960年代に祖国復帰運動が展開され、1969年の佐藤・ニクソン会談では「核抜き・本土なみ」の条件で沖縄返還に合意した。佐藤栄作内閣は、1971年に沖縄返還協定を結び、翌年沖縄の日本返還が実現したが、在日米軍の基地が残存するなど大きな問題点を残した。よって、②の沖縄返還協定の調印を池田勇人内閣とした記述は誤り。

問7 35 ④が正しい。

高度経済成長のひずみは社会運動を高揚させ、それを背景として、1967年には、日本社会党や日本共産党の市民グループによって擁立された美濃部亮吉<sup>みのの べりょうきち</sup>が東京都知事に当選した。

それ以降、1970年代初めには、京都・大阪の知事や大都市の市長が革新系で占められ、いわゆる革新自治体が各地で誕生した。

①のプラザ合意は1985年、②の足尾鉍毒事件は明治時代であるから、いずれも高度経済成長期の出来事として適当でない。また、③の公害規制を強化したのは1967年に成立した公害対策基本法であるから、この記述も誤り。なお、公害対策基本法の改正を経て、1971年に環境庁が発足している。

問8 36 ③が正しい。

X アメリカのニクソン大統領は、1971年、金とドルの交換停止と輸入課徴金などを骨子とする新経済政策を発表した。このドル＝ショックによって、ドルを基軸通貨とする体制は大きく揺らぎ、同年末には、円を1ドル＝308円に切り上げるなどの通貨調整も行われたが、固定相場制を維持することは難しく、主要先進国に従って日本も1973年に変動為替相場制へ移行した。

Y 1973年に第4次中東戦争が勃発すると、アラブ諸国はイスラエル側の欧米や日本に対する原油の公示価格の引き上げを行った。この(第1次)石油危機にともなって、激しいインフレーションが起こり、狂乱物価のなかで消費者が生活用品を買い占めるなどの事態が生じた。